

平成27年度 学校評価報告書【国立市国立第一中学校】

学校教育目標	「たくましい、心豊かな人間をめざして」次の目標を設定する。 1. 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 2. 豊かな創造性を養おう。 3. 思いやる心をもとう。 4. 健康な心身をつくろう。	重点目標	意欲が高まる授業を創り、温かな心を育て、広い視野に役立つ生徒を育成する。 1 確かな学力の向上 「やる気」あふれる授業 2 心の教育の充実 「温かな心」あふれる学校 3 特別活動の充実 「感動」あふれる学校
--------	--	------	--

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価	
					中間評価	最終評価				
1 「やる気」あふれる授業 確かな学力の向上	③ ②① 全教員 の授業 解決型 学習を する。質 の向上 を図る。 ② 問題 解決型 学習を する。質 の向上 を図る。 ① 問題 解決型 学習を する。質 の向上 を図る。	目的と 実施内 容の周 知と模 範の提 示	①聞くだけの時間を減らし、考えながら参加させる授業を行う。	生徒の授業評価アンケートに「考えながら授業に参加することができたか」を加え、「そう思う」の生徒の割合を80%以上にする。	A	A	全学年、平均して88%を越えていた。真面目に授業に取り組んでいる生徒が多く、考えさせる授業を教員が意識しているためと思われる。	これからも生徒理解に努め、講義形式の授業ではなく、考えながら参加させる授業づくりをしていく。	引き続き考えさせる授業を。今後、タブレットを使った子どもたちが入ってくるので、授業に取り入れてほしい。	
			②特別支援教育の視点を生かした学習指導方法を校内研修に取り入れ、一中の「授業におけるユニバーサル」を研究、実践する。	生徒の授業評価アンケートに「工夫があり、意欲的に取り組める授業であったか」を加え、「そう思う」の生徒の割合を80%以上にする。	B	A	全学年平均すると、かろうじて80%を越えた。現在、誰にとっても分かりやすいユニバーサル授業に取り組んでいるが、全教員に定着・浸透していない。個々の段階でユニバーサル授業を考え、実践していると思われる。	個々の段階でユニバーサル授業を考え実践していたので、次は、教科・学年・学校全体として一貫性をもたせた授業を行っていく。個々の研究はさらに進め、これからも学校全体で情報を共有していく。	先生方の授業に対する意欲が強く感じられるようになった。ユニバーサル授業は、授業の導入や底上げに効果的。今後、もう一段階上へ。それぞれの持ち味（この先生ならではの）というものを出していけるとよい。	
			③問題解決型学習を通して、生徒の思考力・表現力・コミュニケーション力を高める生徒主体の授業展開をする。	生徒の授業評価アンケートに「自分の意見を述べたり、人の意見を聞く力が高まったか」を加え、「そう思う」の生徒の割合を80%以上にする。	C	B	全体的に多くの教科で数値が低い。発表の機会に前に比べて設けているが、発言させても数人で終わる、手を挙げていても1, 2人しか当てないなど、発表のさせ方に対する教員の技量が足りていない。	ペアやグループ活動ができるだけ取り入れ、全員が発表する場面を多く設定する。手を挙げている生徒には全員発言させる、手を挙げていない生徒には答えを選択させるなど、全員参加型の授業展開を行う。	自分の意見を言う場面が足りない。課題である。これからの時代はプレゼン力を高めてほしい。それがコミュニケーション力やいじめ防止にもつながる。	
2 心の教育の充実「温かな心」あふれる学校	「感謝 か思い やり」 の心 を育 む	を体動 スベ シヤ ラ性 ン化 ブレ イセ ラア への 学 校 の 識 全 活	スペシャルプランナーが放送や朝礼などでボランティア活動（一橋大学前バス停留所の植栽事業、地域の行事など）への参加を呼びかける。	ボランティア参加率が全校生徒の延べ50%以上にする。	B	A	中間評価までにボランティア活動参加者数が合計延べ258名（57%）を達成できたので、評価指標を70%に上方修正した。資料5で示したように合計延べ421名（94%）の生徒がボランティア活動に参加できた。	予想よりも多くの生徒が参加してくれた際など職員への受け入れ準備が十分でないことなどがあつた。今年度の問題点を共有し、ボランティア活動の受け入れ態勢を整えていく。また夏休み中のボランティア参加など学校主催でないボランティア活動に自主的参加できる生徒を増やしていけるようお知らせや呼びかけをしていく。	花植えや清掃などのボランティア活動だけでなく、人と関わりをもてるボランティア活動もできると良い。	
			を清 掃 活 動 の 充 実	美化週間に年に3回、学期ごとに実施し、生徒の校内美化の意識を高めていく。	生徒アンケートにおいて「清掃活動にしっかりと取り組めた」回答を80%以上ににする。	B	B	アンケートを2学期末に各学年で実施。「清掃活動にしっかりと取り組めた」の質問に対して「できた」と回答した生徒が68%、「概ねできた」と回答した生徒が31%と合計するとほぼ100%である。	美化週間の期間は細かいところまで意識を高く取り組むことができていたが、それ以外の期間ではその意識を継続することができていない。美化委員、教員からの呼びかけを繰り返す。	自主的にごみを拾う習慣などが身につけていない。体育大会などの行事においても、ごみ拾いができるとよい。
			「い じ め の な い 学 校」 を 作 る	「いじめ防止プログラム」を実施する（1年生）。全校集会、朝礼などで生徒会役員とスクールパディが連携して、いじめ防止の呼びかけや寸劇などを行い、いじめを許さない雰囲気を作る。	職員意識を高め、早期発見に努める。また6月、11月に生徒アンケートを実施し、出てきたものは軽微なものであっても、納得できるまで、聞き取りをする。	生徒アンケートにおいて、「仲間が嫌がる行動や態度を慎もうという気持ちをもてた」の回答が90%以上にする。「いじめをはやしたてた」「いじめを見てみないふりをした」の回答がそれぞれ10%未満にする。	B	B	ふれあい月間の生徒アンケートの結果、「仲間が嫌がる行動や態度を慎もうという気持ちをもてた」の質問に対して、「もてた」と回答した生徒が各学年96%、「いじめをはやしたてた」の回答が1%、「いじめを見てみないふりをした」の回答が2%であった。	「いじめられた」と回答した生徒は少ないが、それに対して「いじめをした」と回答している生徒が非常に多い。自分に厳しいという傾向もみられるが、「嫌なこと言った」「からかい冷やかをした」という回答が多くみられる。言葉遣いの指導なども徹底していく。
特別活動の充実「感動」あふれる学校	心 に 残 る 学 校 行 事 を 創 造 す る。	身 実 行 委 員 な ど が 中 心 と な り、 生 徒 た ち 自	体育大会では、学年種目やクラスリレーなどで工夫、改善を繰り返し、クラスでの活動を充実させることを通じて、クラスへの所属感を高める。	生徒アンケートにて「クラスや学年で協力をし、行事をさせよう」と取り組むことができた。「実行委員の取り組みが成功に導いたと思う」の回答が80%以上にする。	A	A	生徒アンケートにて「クラスや学年で協力をし、行事をさせよう」と取り組むことができた。回答が449名（96%）、「実行委員の取り組みが成功に導いたと思う」の回答が395名（95%）であった。	学年種目の安全管理上に課題がいくつか挙げられた。安全に種目に取り組める環境づくりをしていく。	当日に生徒たちが生き生きと競技に取り組んだ。合唱コンクールでも各学年の良さがでていた。	
			校外学習（1, 2年）修学旅行（3年）では、ルールなど実行委員や班長が中心に考え、生徒主体で運営させる。	1年生は実行委員がルールの徹底に努めました。2年生は実行委員がルール作りから取り組みました。3年生の修学旅行では集団としての大きな成長がみられた。	B	B	大きな問題はなかったものの、ガムを食べるなどの違反が数件あつた。実行委員の活動や思いを他の生徒に伝えていく。	生徒がルール等を決めながら、ルールを守る取り組みになっている。今後一層そのような取り組みになってほしい。		
			合唱コンクールでは、実行委員が中心となり練習計画を立て、パートリーダー・指揮者・伴奏者が中心の練習を進める。	生徒アンケートにて「実行委員の取り組みが成功に導いたと思う」の回答が396名（94%）であった。	/	A	クラスごとの取り組みや練習への意識に差が見られた。実行委員会や担任の先生が取り組みの情報共有をしていく。	アンケートでの保護者自由意見を参考にし、改善する点はしっかりと改善させていってほしい。		

達成状況の指標 A: 100%~80% B: 79%~50% C: 49%~0%